

# 事業報告書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

公益財団法人 札幌交響楽団

公益財団法人札幌交響楽団は、定款第2章第3条に基づき、交響管弦楽による音楽芸術の普及向上に関し、必要な事業を行い、もって札幌市及び北海道における文化と教育の振興に寄与することを目的とする事業を行った。

定款第2章第4条に掲げる事業を次のように行った。

平成28年度のオーケストラによる公演

## (1) 札幌交響楽団を編成し、及び維持すること。

### 1. 評議員、役員等及び事務局

評議員19名、理事19名、監事1名、事務局員14名

### 2. 交響楽団の編成

首席指揮者、名誉音楽監督、名誉指揮者 各1名、指揮者2名、楽団員78名

(平成29年3月末日現在)

ステージスタッフ、ライブラリアン及びパーソネルマネージャー 計4名

### 3. 首席指揮者、名誉音楽監督、名誉指揮者、指揮者及び楽団員は、次の回数の公演に出演し練習に従事した。

首席指揮者 (マックス・ポンマー) 出演回数14回、練習日数17日

名誉音楽監督 (尾高忠明) 出演回数 9回、練習日数 8日

名誉指揮者 (ラドミル・エリシュカ) 出演回数 6回、練習日数 8日

指揮者 (佐藤俊太郎) 出演回数15回、練習日数 6日

指揮者 (垣内悠希) 出演回数12回、練習日数12日

交響楽団としての出演回数は合計113回、練習日数102日

この他小編成による教育や福祉関係の活動53回

なお交響楽団として移動日も含めての稼働日数は231日

## (2) 交響管弦楽の演奏を行うこと。

### 1. 自主公演

#### 【定期演奏会】

平成28年4月から平成29年3月までに1プログラムにつき2回ずつの公演を実施、計20公演実施した。

定期演奏会は札幌交響楽団の活動の主軸になる公演。ポンマーが3回計6公演、尾高が1回計2公演、エリシュカが2回4公演を指揮した。

#### 【名曲シリーズ】

名曲シリーズは平成28年4月から平成29年2月までに5公演実施した。

#### 【特別演奏会】

札幌市内で7公演、北海道内地方で8公演、道外では東京で1公演、計16公演実施した。

○札幌市内公演

- |    |                             |            |
|----|-----------------------------|------------|
| 1. | 札幌シンフォニック・ブラス               | 5月 8日      |
| 2. | 3 札幌ポップス・コンサート Vol.14 (2公演) | 7月26日      |
| 4. | 5 札幌&アキラさんの大発見コンサート (2公演)   | 8月21日      |
| 6. | 7 札幌の第9 (2公演)               | 12月10日、11日 |

○北海道内地方公演

札幌交響楽団は北海道内各地に優れた演奏を届けることが重大な使命であると考え、平成28年度は自主・依頼公演、音楽教室合わせ道内38公演を実施。

北海道内地方公演－自主公演分

- |    |       |        |
|----|-------|--------|
| 1. | 名寄公演  | 4月27日  |
| 2. | 北見公演  | 4月28日  |
| 3. | 江差公演  | 7月 7日  |
| 4. | 留萌公演  | 8月20日  |
| 5. | 長万部公演 | 9月 2日  |
| 6. | 積丹公演  | 10月29日 |
| 7. | 富良野公演 | 12月17日 |
| 8. | 小樽公演  | 1月21日  |

○東京公演

3月14日

エリシュカの指揮でブラームス交響曲第1番を演奏、ブラームス交響曲全曲演奏を達成し、好評を博した。

2. 依頼公演

各種団体、企業、自治体などが主催する演奏会に依頼に応じて出演。(計44回)

○札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26回

○北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18回

北海道新聞社、北海道電力、北洋銀行、札幌市芸術文化財団(キタラ)、北海道公立学校教職員互助会、北海道銀行をはじめ多くの企業、自治体の支援を受けて開催。

(3) 青少年の音楽鑑賞及び演奏に関し、指導を行い、その普及を図ること。

オーケストラによる音楽教室を次のとおり開催。(計28回)

○札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11回

○北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7回

○北海道外公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10回

北海道外公演は、文化庁からの依頼により和歌山、大阪、奈良での公演を行った。

楽団員によるワークショップ(体験型音楽教室)では、小学生と音楽を通して交流を深め、鑑賞するだけでなく演奏に参加して得られる感動も広めることができた。(計25回)

○ワークショップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17回

○楽器講習会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8回

(4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

1) 広報宣伝

○プログラムの発行

定期演奏会ははじめ自主公演では毎回、音楽評論家等による研究論文、楽曲解説、楽団の活動報告、楽団員紹介を載せたプログラムを発行、公演来場者及び会員、関係先に配布。

○ニュースレターの発行

札幌交響楽団の活動報告、公演案内など、最新情報を掲載したニュースレターを年に4回発行。

○ホームページによる広報

札幌交響楽団の最新情報を掲載し、チケット販売の促進をするほか、定期会員・パトロン・ネージュ会員の入会案内を行った。また、フェイスブック、ツイッターを用いて随時リハーサル風景、演奏会情報を告知した。

2) その他の公演事業

○アンサンブル（18回）

コンサートホール以外の様々な場所でも演奏することによって、クラシック音楽に接する機会が少ない方にも札幌の存在をアピールした。

○慰問演奏（10回）

特別支援学校、老人ホーム、障害者施設などに楽団員が出向き、コンサートに出かけることのできない方々に音楽鑑賞の機会を提供、社会貢献活動を行なった。

3) 記録の整理と活用（周年特別会計）

○記録資料

資料文書を整理、演奏記録のデータベース化を図っている。

○名誉創立指揮者荒谷正雄展の開催

第593回定期演奏会（9月16、17日）で創立55年を記念する荒谷正雄展を開催し、札幌の創立当初の資料等を公開・展示した。

# 札幌交響楽団 平成28年度活動報告

平成29年5月8日作成

公益財団法人 札幌交響楽団

札幌市中央区中島公園1-15

札幌コンサートホール内

<http://www.sso.or.jp>

# 札幌交響楽団の活動

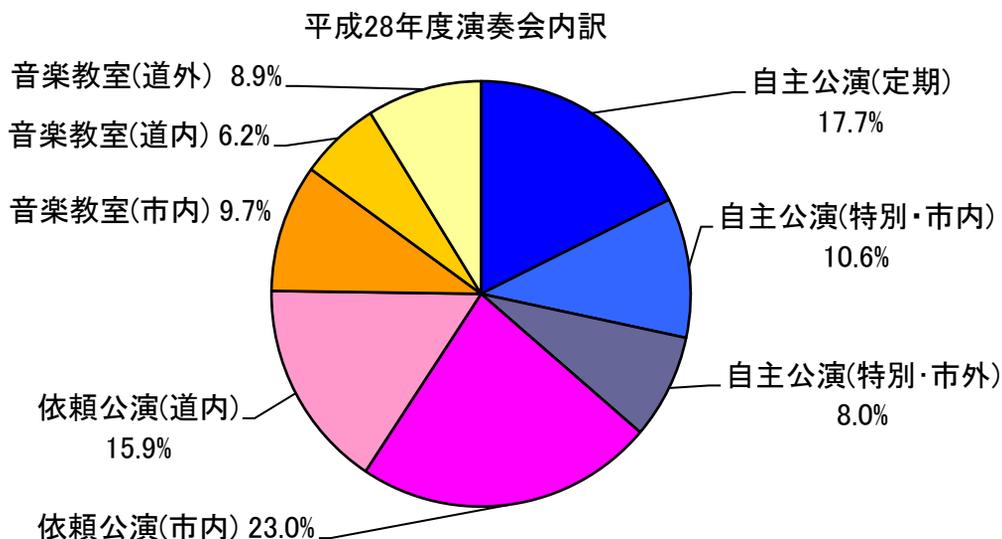
## オーケストラ演奏会 計113公演

### ■ 自主公演(41公演)

定期演奏会(札幌市内)	20公演
札幌市内	12公演
北海道内	8公演
北海道外	1公演

### ■ 依頼公演(44公演)

### ■ 音楽教室(28公演)



## 教育・地域活動、アンサンブル演奏 計 53公演

**総計166公演**

# 自主公演 札幌が主催した演奏会です。

## ■ 定期演奏会 年20公演

## ■ 札幌市内公演 年12公演

札幌名曲シリーズ(5公演)

札幌とアキラさんの大発見コンサート  
(2公演)

札幌シンフォニック・ブラス

札幌ポップスコンサートvol.13(2公演)

札幌の第9(2公演)



9月定期演奏会は10周年の札幌合唱団とモーツァルトのレクイエムを演奏(指揮:M.ポンマー)。

## ■ 北海道内公演 年8公演

名寄公演、北見公演、留萌公演

(アキラさんのモダンコンサート 道内公演)

江差公演

長万部公演

富良野公演

積丹町公演 (萬田記念財団 協賛公演)

札幌ニューイヤーコンサートin小樽



アキラさんとともに道内3都市ツアーを行うなど、平成28年度は、8市町で主催公演を実施。

## ■ 北海道外公演 年1公演

東京公演2017 (東京芸術劇場)



サントリーホールが改修工事のため、東京芸術劇場に会場を移して東京公演を開催。

# 依頼公演

企業、自治体などの依頼で  
演奏会を提供しました。

## ■ 札幌市内公演

全26公演

Kitara主催(3公演)、ほくでん、道銀、北洋、友の会、ロジネットジャパン、さぽーとさっぽろ、HBA、さっしん、999人の第九、JAF、HTB、日演連、宮崎陽江が継続して開催。さらに、タナカメディカルグループ、あいぷらん、HBC(co-op)等、支援企業がそれぞれに新たな聴衆層を開拓する演奏会を開催、前年度に好評のNHKによる番組の公開収録や玉置浩二との共演も再度行われました。2月には札幌を舞台とした国際的なイベント、冬季アジア大会の開会式にも出演しました。

新たな動きとして、ゲーム音楽に特化した演奏会が2日間4公演の日程で実施され、多くの若者を集めました。平成29年度にも同様の企画が予定され、オーケストラに親しむ新たなジャンルとして今後の継続発展も期待できると考えています。

## ■ 道内各地の公演

全18公演

北海道新聞社との共催 8公演

(稚内、江別、釧路、旭川、岩見沢、北広島、栗山、帯広)

ほくでんファミリーコンサート 5公演

(浜頓別、登別、大樹、網走、白糠)

北海道公立学校教職員互助会公演 2公演

(奥尻、石狩)

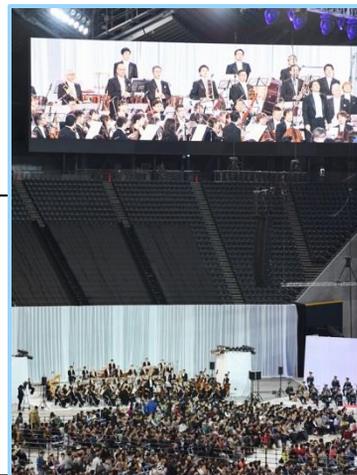
北洋銀行コンサート(函館)

ホクレングリーンコンサート(岩見沢)

クロネコヤマト音楽宅急便(滝川)



スクリーン利用やキャラクターの登場で親子むけに親しみやすさを演出した演奏会など、積極的な企画が。



国際イベント、冬季アジア大会の開会式では、札幌の文化を代表してオープニングや、聖火点灯の音楽を担当。



20年ぶりとなった奥尻島での演奏会。札幌メンバーをのせたフェリーの到着を横断幕で迎える町のみなさんの姿も。

# 音楽教室

青少年向けに音楽の楽しさを伝えました。

## ■ Kitaraファーストコンサート ／ 広域圏ジュニアクラシック

平成28年度、札幌市主催による札幌市内の全小学6年生を対象としたKitaraファーストコンサート全9公演と札幌市広域圏組合主催による近隣市町小学生を対象とした広域圏ジュニアクラシックコンサート2公演を開催しました。

指揮は首席指揮者のマックス・ポンマーと指揮者の佐藤俊太郎、名誉音楽監督の尾高忠明が務めました。



## ■ ジュニアクラシック

北海道新聞社などの助成をもとに道内各地で開催のジュニアクラシックコンサートは、継続している恵庭、旭川、登別、小樽、苫小牧、音更において開催しました。

また、函館の私立遺愛女子中・高からの依頼を受け、道南方面の演奏会日程にあわせて開催日を調整、同校において開催しました。

## ■ 文化庁主催・文化芸術による子供の育成事業(巡回公演)

平成28年度も、採択され文化庁主催により大阪府、和歌山県、奈良県の小中学校10校を訪問する巡回公演を行いました。オーケストラ公演の前には、楽団員が訪問して事前学習を行い、興味の喚起や理解の促進に努めました。



# 教育・地域活動、 アンサンブル演奏会



小学校を訪れる音楽創造体験プログラムでは、各学校との細かな打ち合わせを行って、子どもたちの音楽への興味を深めるために様々なプログラムを展開しています。



オーケストラ演奏会で道内各地を訪れる機会にあわせ、病院や学校を訪問するなど北海道全域における音楽文化振興にとりこんでいます。



北海道日本ハムファイターズの試合前や小樽の新しい文化施設、ニトリ芸術村のオープニングなど、市民、道民の近くへと活動を拡げ、我が街のオーケストラとしてのアピールを重ねています。



「オーケストラの日」にあわせた練習場公開や練習見学会、ボランティア「ピリッキ」の支援による子ども会員制度(ピリッキスクール)などオーケストラの普及に取り組んでいます。

# 創立55周年～思いを未来へとつなぐ

## ● 9月荒谷正雄メモリアルコンサートと記念ギャラリー展

1961年9月の第1回定期演奏会から55周年を迎えた2016年9月、第593回定期演奏会を名誉創立指揮者の名を戴した「荒谷正雄メモリアルコンサート」として開催しました。

あわせて、同月から11月にかけて、札幌コンサートホールKitaraと協力してホワイエ内のギャラリーを会場に、札幌の足跡を様々な資料や写真パネル、思い出の品で紹介する「荒谷正雄とその時代」展を実施しました。Kitaraを訪れる多くの方に展示を通して、札幌の音楽文化の歴史における札幌誕生の意義や、それを支えた人の熱意を感じていただく貴重な機会となったと考えています。



↑ 札幌の前身となった札幌音楽院の資料から札幌創立時の写真、当時のパンフレットなどを展示  
← 記念ギャラリー展でお披露目した荒谷正雄記念レリーフ

## ● ミュージックペンクラブ音楽賞受賞

日本の主な音楽評論家による団体が選出する「ミュージックペンクラブ音楽賞」のクラシック部門オペラ・オーケストラ部門賞に選出され、平成28年4月に表彰式が行われました。札幌の活発な演奏活動とレコーディングが高く評価されたものです。



さらに、ポンマー指揮札幌の最新CDが、今年1月には、全国のCDショップ店員組合による「CDショップ大賞」推薦盤に選ばれるなど、全国的に札幌への注目と評価が高まっていることを感じます。

## ● 大学との連携協力

平成27年度末に音楽学科を有する札幌大谷大学と連携協力協定を締結しました。それに基づき、従来より行われてきた非常勤講師の派遣、学生インターンシップの受け入れや学生の演奏会出演(第9やシンフォニックブラス)といった連携の継続とあわせ、協力して地域の文化、教育への貢献をめざすこととなりました。平成28年度は9月に、札幌大谷大学において首席指揮者ポンマーによる特別講義を開催し、札幌会員などにも公開されました。平成29年度は、さらに発展させ、カルチャーセンターでの講義を協力して行うこととなります(道新カルチャーセンター「100倍楽しむクラシック」)。なお、北海道大学の一般学生を対象とした講義(教養課程「札幌と音楽文化」)も継続して開催しています。

★札幌公式twitterのスタートと新しいメディアでの展開★ 若手事務局職員を中心に、facebookに続きtwitterでの情報発信、さらにはyoutube活用した画像での演奏会PR活動に取り組んでいます。